

東三河地域における大学と連携した取り組み事例

公益社団法人東三河地域研究センター 主任研究員 澤田 貴行

東三河地域に在する大学の状況

東三河地域には、国立大学として豊橋技術科学大学ⁱ、私立大学として愛知大学ⁱⁱ、豊橋創造大学ⁱⁱⁱ、愛知工科大学^{iv}の計4つの大学がある。各大学の特徴をまとめると以下となる。

豊橋技術科学大学は国内に2校のみの技術科学大学として、高専卒業生を主に対象とした実践的・創造的な教育を展開し、最先端の工学研究力を誇り、産学官連携による地域産業のイノベーション創出や、高度な技術人材の供給に大きく貢献している。愛知大学は、1946年に豊橋で開学し、現在は文学部、地域政策学部と短期大学部があり、東三河の歴史・文化・行政課題を研究している。東三河8市町村をはじめ多くの地方自治体と包括協定も締結しており、学生による地域貢献活動やフィールドワークを含めた講義も展開されている。豊橋創造大学は、実践的職業教育を掲げ、保健医療や経営などの専門分野で地域を支える人材を育成しており、少人数制を活かしたきめ細かな指導が行われ、地元の医療機関や企業、自治体との共同プロジェクトにも積極的である。愛知工科大学は、次世代のモビリティやロボティクスなど、製造業が盛んな東三河のニーズに即した工学教育を実践しており、蒲郡市との強固な協力体制のもと、地域イベントへの技術協力や、地元企業への高い就職実績となっている。

このように各大学は東三河地域とそれぞれの特色を生かした密接な連携のもと研究教育活動が行われている。

東三河地域研究センターから見た最近の事例

東三河地域における大学連携には多くのものがある。ここでは、限定的であるが令和7年度において当センターとの関りのあった事例を紹介する。

① 東三河県庁と愛知大学の連携講座^v

東三河県庁と愛知大学では、双方が持つ人的資源、知的財産の活用等を目指し、両者が連携して新たな講座として、大学のキャリアデザイン特殊講義1/総合科目7（地域政策学部の戸田教授を担当教官）を開設した。講座では、文学部と地域政策学部の学生20人が4つのグループに分かれ、それぞれのテーマを『豊川流域圏の交流づくり』『外国人共生協働のまちづくり』『渥美半島の農業』『親しまれる港「三河港」へ』として、東三河の地域課題の把握から実践的な政策立案シミュレーションまで行った。特徴的なのは、東三河県庁に所属する若手職員が各グループのメンターとなり協働してこれらを行ったことに加え、図1に示すシラバスからも分かるように、座学だけでなく東三河地域を北部と南部に分けたそれぞれのテーマに則したフィールドワークを実施したことが挙げられる。

2025年1月14日には、愛知大学学長や愛知県副知事他多くの参加者を集めた成果発表会が行われた。成果発表会のチラシを図2に示す。

図1 愛知大学連携講座のシラバス（抜粋）

| 講義情報 |
|---|
| <p>テーマ Theme</p> <p>愛知県職員とともに東三河各地でフィールドワークを行い、地域が抱える課題を知ります。フィールドワークで得た知見を生かしながら政策プロジェクト立案を体験することによって、自治体における政策担当職員の在り方を学ぶとともに、県職員のやりがいや業務実態を学びます。</p> |
| <p>概要 Synopsis</p> <p>東三河地域の現状や課題の学習を通じて政策立案の現場・プロセスを学びます。愛知県職員との協働ワークによって県職員の日常や、職業としての魅力を知ることができます。東三河地域をフィールドとした地域課題を解決するプロジェクトを考えます。概ね5名を1グループとし、各グループに現職の愛知県職員がメンターを担当します。</p> |
| <p>到達目標 Aim</p> <p>愛知県職員との交流やフィールドワークを通じ、公務員として働くことの魅力や意義を理解します。自治体で必要とする課題把握力、データ収集・分析力、論理的思考力、課題解決方法を立案する力を高めます。</p> |
| <p>授業形態 Class style</p> <p>講義、フィールドワーク</p> |
| <p>内容・スケジュール Contents, schedule</p> <p>受講定員20名 【講義担当者】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、県職員と市町村職員の違い、グループ分け【教員・県職員】 2. 東三河地域の地域課題、現状、将来展望の概要【県職員】 3. 中山間地域のケーススタディ①【県職員】 <ul style="list-style-type: none"> ・新城設楽振興事務所職員の日常、やりがい ・東三河北部の課題等（人口減少の進行、水源地の現状） 4. 5. 6. フィールドワーク（土曜日に振り替える） 中山間地域のケーススタディ②【県職員、外部講師】 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人との共生協働 ・設楽ダムの役割 7. 中山間地域のケーススタディ（人口減少）に関するプロジェクトワーク①【教員・県職員・外部講師】 <ul style="list-style-type: none"> ※各グループとメンターはワークをブラッシュアップ 8. 中山間地域のケーススタディ（水源地）に関するプロジェクトワーク②【教員・県職員・外部講師】 <ul style="list-style-type: none"> ※各グループとメンターはワークをブラッシュアップ 9. 都市地域のケーススタディ①【県職員】 <ul style="list-style-type: none"> ・東三河総局職員の日常、やりがい ・東三河南部の課題等（農業、産業） 10.11.12. フィールドワーク（土曜日に振り替える） 都市地域のケーススタディ②【教員・県職員・外部講師】 <ul style="list-style-type: none"> ・豊川用水の役割 ・農地の実態 ・三河港の特徴 13. 都市地域のケーススタディ（農業）に関するプロジェクトワーク①【教員・県職員・外部講師】 <ul style="list-style-type: none"> ※各グループとメンターはワークをブラッシュアップ 14. 都市地域のケーススタディ（産業）に関するプロジェクトワーク②【教員・県職員・外部講師】 <ul style="list-style-type: none"> ※各グループとメンターはワークをブラッシュアップ 15. 発表、意見交換、講評【教員・県職員・外部講師】 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループがプロジェクト案を発表 <p>※フィールドワーク実施日は1回に3コマを想定。そのためフィールドワーク1回につき3コマ分の講義を別日（土曜日）に振替する。フィールドワーク交通手段は愛知県で準備。 ※15回目講義（提案発表）に向けて、メンターとプロジェクト提案のブラッシュアップの時間を適時講義外に設ける。 ※ケーススタディ及びフィールドワークのテーマは変更になることがあります。</p> |
| <p>準備学習・事後学習 Preparation, review</p> <p>準備学習：WEBで公開されている東三河振興ビジョン2030や重点プロジェクト、地域の新聞記事に目を通し、東三河地域の動向に関心を持って読んでください。 事後学習：5人程度のグループ単位で取り組む講義となりますので、グループ内でしっかり意見交換してください。なおフィールドワークや発表については、受講者の日程を調整します。</p> |
| <p>準備学習・事後学習の時間</p> <p>準備学習 2時間 事後学習 2時間（2単位科目）</p> |
| <p>学外授業 Outside activities</p> <p>内容・スケジュールに記載したように、フィールドワークは必須です。また、希望者には愛知県東三河県庁でのインターシップを実施する予定です。</p> |

表面

裏面

東三河県庁と愛知大学の連携講座

成果発表会

(事前申込制・参加無料)

2026年1月14日(水) 13:00~16:00
愛知大学豊橋校舎 Center Bldg.110教室

今年度の秋学期に初めて開講した「東三河県庁と愛知大学の連携講座」。この講座では、東三河県庁の若手職員と愛知大学の学生がグループを組み、東三河の未来につながる政策提案に取り組みました。今回、両者が共に学び、考え、創り上げた成果を多くの皆さまに報告します。

13:00 開会 (12:30 受付開始)
 <あいさつ> 愛知大学 学長 広瀬 裕樹
 愛知県 副知事 江口 幸雄
 <趣旨説明> 愛知大学 地域政策学 戸田 敏行

13:30 成果発表

- 豊川流域圏の交流づくり
- 外国人共生協働のまちづくり
- 渥美半島の農業
- 親しまれる港「三河港」へ

15:15 講評

参加申込
 右のQRコードから必要事項を登録してご参加ください。
 【定員300名】
 【申込締切:1月12日】
<https://forms.gle/DHj5G6t8WVH3j1MVDG>

【お問い合わせ】
 愛知大学豊橋教務課 (担当:菅谷、太田) 電話:0532-47-4117 メール:tkyomu@ml.aichi-u.ac.jp
 東三河税関企画調整部企画調整課 (担当:大橋、白高) 電話:0532-35-6100 メール:higashimikawa@pref.aichi.lg.jp

この地域を次の世代とともに

東三河県庁と愛知大学の連携講座

東三河県庁と愛知大学の連携講座は、両者がこれまでにも伸ばした連携・協力に関する協定に基づく新たな取組として開講しました。最大の特色は、東三河県庁の若手職員が「メンター」として学生5名とグループを組み、講座やフィールドワーク、グループワークに至るまで一緒に行動し、成果を創り上げたことです。

学生が東三河地域の現状や課題、展望などについて学び、課題を解決する政策を自ら立案することで、企画提案スキルの向上を図ると同時に、県職員への親しみや職業としての魅力を体感することができたのではないのでしょうか。また、県職員にとっても、新たな発想や社会コースといった県行政に有用な見識を深めたり、政策立案能力や説明スキルを向上させたりなど、キャリア形成に大きく役立つ機会となりました。

県職員と愛知大学の学生が協働して東三河地域の未来について考えることを通じて、地域の活力創出に貢献したいと思えます。皆さま、お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください。

発表の概要

豊川流域圏の交流づくり

豊川の水に関係する地域は豊川流域圏と呼ばれ、導水・用水により愛知県・静岡県・長野県に跨ります。この地域は2034年度完成予定の富良野ダムにより、災害に強く安定した水利用が期待されます。

一方で、豊川流域圏としての課題の一つとして、水源地域である東三河地域では少子高齢化等による人口減少が進んでいることが挙げられます。私たちは、水源地域を元気にするために「水都地域との交流」という手法に着目して、政策を提案します。

外国人共生協働のまちづくり

東三河地域には多くの外国人が生活しています。これからの東三河地域には、国籍や文化の異なる人々が相互理解し、対等な関係のもと地域の一員として共に生きる「外国人との共生」が、今以上に大切になると考えています。私たちのグループは日本人と外国人が安心し楽しく暮らせる社会を目指し、4つの柱(1.交流の場づくり、2.文化理解の機会を学ぶ機会の提供、3.言語対応の充実、4.インバウンドの拡充)を軸にした政策を提案します。

渥美半島の農業

愛知県農業は全国8位の産出額を誇り、市町村別では田原市が2位となるなど、東三河は花き・野菜・畜産など多様な品目で強みを持つ一方、担い手不足や高齢化、地産地消が進んでいないのが現状として挙げられます。

講座では新規就業者確保の課題と既存の農家の大規模化による生産維持、需要拡大の取組、「食と農」をつなぐ取組の重要性を学びました。私たちの提案は、次世代に地域農業に関心をもってもらえるようにどうしたら良いかという観点から、新規就業者の確保・育成、地産地消の推進を図るものです。

親しまれる港「三河港」へ

三河港は、輸出自動車取扱台数で全国第2位、輸入自動車取扱台数で32年連続全国第1位の世界に誇る自動車港湾です。その一方で、その存在や役割は国民にあまり広く知られていない現状があります。

私たちは「三河港チーム」は、半世紀の学びを通じ、「この港が持つ「親しまれる港」としての可能性に注目しました。三河港が果たす役割や魅力について、県民に広く知ってもらいたい—そんな思いで、今回の成果発表会に臨みます。

図2 愛知大学連携講座の成果発表会チラシ

② 豊橋創造大学の地域企業連携プロジェクト^{vi}

豊橋創造大学では経営学部経営学科において、学生自身が企画・立案・運営するプロジェクトを立ち上げる場の提供を行い、プロジェクト運営を通して学生自らが気づき・学ぶ『SOZOプロジェクト』(科目名「プロジェクト実習」)を推進している。

2025年度のテーマには「東三河若年層流出問題への提言」(犬飼講師が指導)があり、「住みたい。働きたい東三河へ」をテーマに、学生からの東三河の人口減少が思いのほか多いこと、文系大卒の就業先が少ないという学生の実感を基にしている。具体的には、「若者に東三河が住みにくい状況であるから、結果として就学や就業のために『若者の人口流出が生じるのではないか』という仮説のもと東三河の若年層の人口流出への提言する研究について10名の学生が研究と実習を行った。

どちらかの参加も、予約無しの日当日参加もOK!

参加無料

住みたい。働きたい東三河へ

PROGRAM:

- 第一部: 在豊橋大学3年生によるトークショー
- 第二部: 東三河地域研究センターの方、豊橋市産業振興政策課の方、モデルーター犬飼とのパネルディスカッション

大綱プロジェクト × emCAMPUS STUDIO

シンポジウム開催

日時 12/06 土 第一部: 11:00 ~ 12:00 第二部: 13:30 ~ 14:30

会場 emCAMPUS STUDIO EAST 5階 emCAMPUS STUDIO ROOM#01

対象 興味がある方なら誰でも!

服装 私服

申込 専用フォームからお申込み

お問い合わせ info@projct.info@ccu1.com

共催 Care & Share 豊橋創造大学 3&8 サラグループ emCAMPUS STUDIO

図3 豊橋創造大学のシンポジウム

2025年12月6日には図3に示す2部構成のシンポジウムが開催され、第1部では豊橋市在住の4名の大学生による「豊橋市の住みやすさ・住みにくさ」「豊橋市がどのようになって欲しいか」等のディスカッション、第2部では豊橋市産業部産業政策課と当センターによって、豊橋市が目指す産業の姿、女性の雇用環境のほか、東三河の少子高齢化や産業構造の解説や地元企業のDX対応への課題等に関する研究成果等が報告された。その後には、プロジェクト学生を交えながら「若者が住みたい。働きたい東三河」のために、現状の若者の地元就職意識の高さ、学生の地元へへの就職意向等について活発な意見交換が行われた。

他にも「CoderDojo 豊橋／小中高生向けのビジュアルプログラミング提供機会の研究他／今井教授指導」「東三河エコタウン・プロジェクト／公共施設に設置された太陽光発電システムの導入浄化研究他／見目教授指導」「SOZO 山岳研究プロジェクト／東三河地域の山岳の観光資源としての活用研究他／中沢講師指導」「のんほいパーク盛り上げ隊／のんほいパークを盛り上げるためのSNS等を利用した情報発信研究他／三輪教授・山口教授指導」といった4つのプロジェクトの推進状況が発表された。

③ 豊橋技術科学大学の実務訓練^{vii}

豊橋技術科学大学では、多くの企業へ学部4年生を派遣する実務訓練を実施している。この制度では、インターンのような学生の成長を目指すものにとどまらず、企業の未来を育てる場として捉えられており、学生が「実社会で働くことを通じて成長する」だけでなく、その受入過程において、「若手育成」「組織の学び直し」「ブランド価値向上」等に繋がるように設計されている。具体的には、学生の研究技術スキルを活かした業務に実務訓練として従事してもらうことができるようになっている。このため実務訓練期間は短期的でなく、1月初から2月中旬までと長期的なものとなっている。

当センターにおいても、これまでも実務訓練生を受け入れてきた。最近では令和5年度に実務訓練生に高度なデータ分析技術を活用して東三河地域の人口減少と将来推計の詳細分析や当時の将来推計値と現在値において生じた誤差からの地域状況分析に取り組んでもらった。また、将来人口増に向けた各市町村の少子化対策等の分析にも取り組んでもらい、当センターでは、東三河の現状や将来に関する新たな示唆を得ることができた。令和7年度は、東三河だけでなく、三遠南信地域と静岡中部地域を加えた各市町村が策定した地域再生計画について、それらの要約文を大規模言語モデル（LLM: Large Language Model インターネット上にある記事や書籍等の膨大なテキストデータを学習し、人間のように自然な文章を生成・理解できるAIのこと）を活用して作成したうえで、市町村の地域再生へのテーマの量的把握に取り組んでもらった。また、その要約文の単語利用分析等から市町村政策の方向性に関する類似性把握にも取り組んでもらった。この取組みのイメージを図4に示す。なお、これらの取組みは、これまではない政策分析手法の一つとなり得るものであり、大規模言語モデルの有用性が示唆されたものと評価するところである。

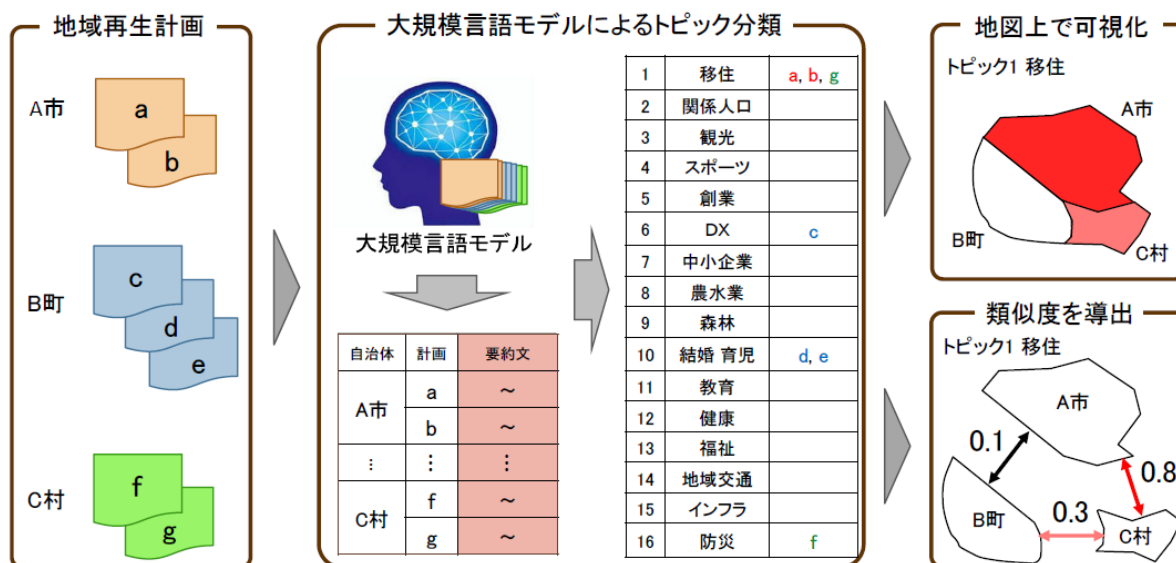


図4 大規模言語モデルを利用した地域再生計画の分析イメージ

④ 地域関連研究発表会

当センターでは、今年度は第32回目として、愛知工科大学をはじめ4大学の学生による研究を地域で行われた研究成果として、市民をはじめ行政機関の地域担当者や大学の研究者などに紹介する「地域関連研究発表会」を長きにわたり開催をしている。なお、今年度は3月19日に以下の6つの報告がされる。ぜひ、聴講に訪れていただきたい。

- ① 「田原市を対象とした高校生の通学における路線バス利用支援・促進策の検討に関する研究」・豊橋技術科学大学
- ② 「住まいに対する子どもの嗜好把握と評価手法 —平面・立体コラージュを用いた理想とする住まいの制作実験—」・豊橋技術科学大学
- ③ 「シーシャ（水たばこ）店舗におけるサードプレスとしての可能性」・愛知大学
- ④ 「東三河における郷土料理の消費者認知度とその課題」・愛知大学
- ⑤ 「ホテイアオイによる淡水魚養殖排水の浄化作用の研究」・豊橋創造大学
- ⑥ 「Wi-Fi CSI による他端末無線通信品質予測の基礎検討」・愛知工科大学

⑤ 東三河デジタル人材共創プロジェクト

当センターでは、「スマートリージョン」として広域行政の研究を行っている。その取り組みの1つとして、令和7年度より「東三河デジタル人材共創プロジェクト」を立ち上げた。このプロジェクトは、東三河地域の大学生15名（豊橋技術科学大学、愛知大学、豊橋創造大学の各5名程度）を対象に、まちづくりに必要な知識やスキルを身につけてもらい、社会実装のプロセスを学び、また、データを使って正確にまちの課題を把握し、ICT技術を活用して地域課題を解決するソリューションを提案する力を身につけることを目的としている。

合同会社シーワンエンタープライズ、代表取締役の道下洋夫氏をファシリテータに迎え、9月26日には「まちづくり総論」、10月24日には「地域コミュニティ」に関する座学のうちに、大学生がグループを作り、以下のワークショップを行った。

【「まちづくり総論」のテーマ】

- 1) 外国人の受け入れ問題
- 2) 食料自給率の問題
- 3) 人口減少・過疎化問題
- 4) 少子高齢化問題

【「地域コミュニティ」のテーマ】

住民参加型行政活動（サービス）の
「担い手不足」への対応

- 1) 自治会
- 2) 民生委員
- 3) 国政調査



図5 ワークショップの様子

まとめ

東三河をはじめ多くの地方では少子高齢化をはじめ人口減少が大きな課題となっている。なかでも大学進学等により地元を離れた若者たちが戻ってこないという声は多く聞かれるところであり、この結果、地元企業では高度な人材獲得の難しさがあることを指摘する声もある。一方で東三河には、理系大学と文系大学がそれぞれ2校ずつあり、それぞれの大学の地域貢献への積極的な取り組みがあり、今回紹介した以外にも多くの連携もあって、多様な連携が工学的にも社会的にも行われている。

以上から、今後における産学連携の趣旨として、大学等の高度研究の成果を生かした協働する“場”であることを加え、大学等の人材が定着する契機となることを目指したものとして発展することが期待されるであろう。

参考

- i 豊橋技術科学大学 <https://www.tut.ac.jp/>
- ii 愛知大学 <https://www.aichi-u.ac.jp/>
- iii 豊橋創造大学 <https://www.sozo.ac.jp/>
- iv 愛知工科大学 <https://www.aut.ac.jp/>
- v 東三河県庁と愛知大学の連携講座」の成果発表会を行います！
<https://www.pref.aichi.jp/press-release/20251219kikaku.html>
- vi 2025年度 経営学部3年生によるプロジェクト <https://ba.sozo.ac.jp/project>
- vii 実務訓練 <https://www.tut.ac.jp/university/training/index.html>